キリスト教学研究室紀要

第 11 号

—論文—

アレクサンドリアのフィロンの夢類型
—ストア主義および神秘主義的文脈における再検討—

津田　謙治（1）

—研究ノート—

現代神学と安楽死の問題

芦名　定道（14）

毀損された男性性
—エステル記第一章におけるアハシュエロスをめぐる記述に注目して—

藤守　麗（25）

あとがき　(43)

２０２３年 3月
京都大学キリスト教学研究室

あとがき

◆『キリスト教学研究室紀要』第 11 号をお届けいたします。京都大学キリスト教学専修（研究室）刊行の「研究室紀要」も、2013 年度の創刊から、今回で第 11 号を迎えました。紀要第 11 号を無事に刊行できたことについて、執筆者、そして編集担当者に心から感謝申し上げます。

◆京都大学のキリスト教学研究室は、教員と大学院生を中心に構成された研究者の研究共同体として運営されていますが、そこで取り組まれる研究テーマは多岐にわたっています。構成員（大学院生）が実際にどのような研究を行っているかは、本号に収録された「2022 年度・第二演習の記録」に記載された通りになります。

◆この「研究室紀要」は、キリスト教学研究室の研究内容を広く公開すると共に、所属の大学院生に論文などの執筆機会を提供することを目的としています。

査読体制の確立など、創刊当初からの懸案事項が存在するものの、当面は、大学院生の研究論文、研究ノート、書評に加え、教員（常勤と非常勤）や課程修了者による研究論文を掲載することによって、研究論集としての十分な水準が確保されるように心掛けたいと思います。

◆2022 年度にキリスト教学研究室は創立 100 周年を迎えました。これを記念しまして、12 月 17 日には、100 周年記念シンポジウムを開催し、盛会のうちに終えることができました。これまで研究室を担い、また支えて頂いた諸先輩方に感謝しつつ、より一層の発展に努めて参りたいと思います。

◆2022 年度のキリスト教学専修では、学部卒業生 1 名（堀野早映）、大学院修士課程 1 名（山﨑ひとみ）が、それぞれ卒業論文と修士論文を提出し、それぞれの課程を修了しました。それぞれの場での研鑽と飛躍を期待しております。

なお、2022 年度は、新型コロナウイルス感染への十分な対策のもとで、3 年ぶりに恒例の予餞会を開催しました。また、2023 年度は、新たに学部生 3 名がキリスト教学研究室に加わる予定です。

◆本紀要は、研究室のホームページ、あるいは京都大学学術情報リポジトリ（紅・KURENAI）において公開されており、基本的には電子ジャーナルとして企画されています。これまでは一定部数の印刷製本も行われてきましたが、2021 年度の第 9 号からは、冊子体の印刷は行わなくなりました。この電子ジャーナルによって、キリスト教学研究室の研究活動が研究室外の方々に広く知っていただけるならば、幸いです。

2023 年 3 月

キリスト教学専修・准教授
津田謙治

2022 年度・第二演習の記録

〈前期〉

4 月 12 日	：津田謙治	「オリエンテーション」
4 月 26 日	：平出貴大	「「問いと答え」の場としての人間 — パウル・ティリッヒの人間論」
5 月 7 日	：渡邉蘭子	「キリストによる superbia および concupiscentia の癒し — 『三位一体論』4 巻の分析をとおして」
5 月 10 日	：香西信	「ガラ 3：16 におけるメシア解釈を巡る考察」
5 月 17 日	：波勢邦生	「「賀川豊彦の終末論」序論」
5 月 24 日	：山中健司	「矢内原忠雄の信仰と社会観 (3)」
5 月 31 日	：ティエリ・リチャーズ	「内村鑑三研究の最近の流れのまとめ」
6 月 7 日	：下村真代	「マイスター・エックハルトにおける「甘美さ」」
6 月 14 日	：張潔	「武藤の神学的宗教哲学（3） — 歴史と共に遂行する 「新しい弁証論」をめぐって」
	：西村一輝	「W. パネンベルク『類比と啓示』(1955) 第 1 章における 神の自己啓示に関する議論の整理」
6 月 21 日	：塩川礼佳	「南原繁における「国民共同体」概念の再検討」
7 月 5 日	：メナチェ・アンドレス	「博論のための研究計画における問題」
7 月 12 日	：叶一帆	「学部時代のテーマについて、今後の予定・方向づけ」
	：中尾直通	「ディオニジオス的宇宙論における否定神学の価値」
7 月 26 日	：潘陽	「透谷「心」の発想とキリスト教神学「希望」の間」

〈後期〉

10 月 11 日　：波勢邦生　「博士論文「賀川豊彦の終末」序論」

10 月 11 日　：平出貴大　「中期ティリッヒの「人間論」
— 普遍的人間論を中心に」

10 月 18 日　：山﨑ひとみ　「修士論文「前期パウル・ティリッヒにおける「宗教哲学」と「諸学問の体系」」」

10 月 22 日　：渡邉蘭子　「博士論文「後期アウグスティヌスにおける欲望の問題」の序論」

10 月 25 日　：香西信　「バルナバの手紙 6：2b - 6：4 における石キリスト論」

11 月 1 日　：山中健司　「矢内原忠雄の信仰と社会観 (完) 」

11 月 8 日　：森喜啓一　「ピーター・バーガー研究
— キリスト教の世俗化過程」

：張潔　「「日本的キリスト教」の一考察
— 武藤一雄の「神学的宗教哲学」を中心に」

11 月 26 日　：下村真代　「説教者：神の言葉を聴き、神の言葉を語る人
— マイスター・エックハルト『ヨハネ福音書注解』を手掛かりとして」

11 月 29 日　：ティエリ・リチャーズ　「内村鑑三による終末論と罪の理解の関連性」

：西村一輝　「W. パネンベルクにおける logos analogans の概念
—『アナロギアと啓示』で取り上げられる古代ギリシアの思惟の特徴から」

12 月 20 日　：メナチェ・アンドレス　「日本の初期宣教に見られる補陀落渡海と「悪魔の殉教者」との関係について」

1 月 17 日　：叶一帆　「シュペーナーの聖霊による Erleuchtung について」

：中尾直通　「証聖者マクシモスにおけるキリスト論と人間論のつながり —「神人的働き」の概念をめぐって」

1 月 24 日　：塩川礼佳　「南原繁の哲学方法論
— カント解釈に着目して」

『キリスト教学研究室紀要』について

以下に示す投稿規定、執筆要項は、『宗教研究』（日本宗教学会）に準じたものであるが、暫定的なものであって、随時改訂することになる。

A.『キリスト教学研究室紀要』論文投稿規定

１．投稿者は京都大学キリスト教学専修の教員（常勤・非常勤）と研修員、大学院生にかぎる。なお、ＯＤの投稿については、個別に判断する。

２．内容は未発表の学術論文、書評論文であること。大学院生の投稿者の場合は、第二演習での研究発表などの論文化を原則とし、修士課程の学生の投稿は書評と研究ノートに限るが、本紀要における特別企画などに応募する場合には例外的に論文投稿を認めることがある。論文と書評の採択、またこの原則についての例外的扱いについては、編集委員会（当面は本研究室専任教員）が決定する。なお、研究ノートや諸報告などについても、論文や書評に準じて適宜判断する。

３．原稿は横書き、枚数は学術論文400字詰原稿用紙50～60枚程度（注・図表等を含む)、書評論文 400 字詰原稿用紙 15～20 枚程度とする。

４．電子データの書式は、横書き、40 字×30 行とし、400 字詰原稿用紙での換算枚数を付記する。

５．学術論文には欧文タイトル、氏名のローマ字表記を付記すること。

６．稿料は支払わない。

７．『キリスト教学研究室紀要』は基本的には電子ジャーナルとして刊行され、冊子印刷は行わない。

８．掲載された論文は京都大学キリスト教学専修ホームページと京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）で公開する。そのため、当該論文の複製権と公衆送信権はキリスト教学研究室に委託されるものとする。ただしこれは、執筆者本人による複製権および公衆送信権の行使を妨げるものではない。

—2023 年 3 月 31 日発行—

The Annual Report on Christian Studies

XI

CONTENTS

Article

The Classification of Dream in “De somniis” of Philo of Alexandria
: Reexamination in Stoic and mystical contexts

TSUDA Kenji (1)

Notes

Contemporary Theology and the Issue of Euthanasia

ASHINA Sadamichi (14)

Ridiculed Masculinity: The Characterisation of Ahasuerus in Esther 1

FUJIMORI Rae (25)

Afterword (43)

March, 2023
Faculty of Letters, Kyoto University, Department of Christian Studies
Kyoto Japan